

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600609		
法人名	(有)ニフコ		
事業所名	グループホーム田舎		
所在地	岐阜県揖斐郡池田町沓井603		
自己評価作成日	平成24年10月10日	評価結果市町村受理日	平成25年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2172600609-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな田園風景に囲まれた伝統的な日本家屋という住み慣れた環境です。利用者の出来ることを見出し、それを活かしてゆったり、のんびり一日を過ごすことをサポートしていきたいと考えています。家族が安心して高齢者の生活を託され、利用者、スタッフがあまり気を張らずに自然体で各々の役割を担いながら一日一日を楽しく過ごす場でありたいと願っています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者ができることを日々の生活の中で行ってもらうことが「明るく楽しく生活できる」とし、利用者と体や手が触れ合う瞬間も大切に、笑顔や表情を見逃さない介護を実践している。家族や親族との信頼関係ができ、医療機関と連携し過去4例の看取りをしている。管理者は緊急時の情報伝達はメールで一斉送信し、即実践できるようにしている。利用者の安全と職員の働きやすさを主眼として、職員と話し合いながら利用者に合わせて、どんな些細な事も試行錯誤しながら、その都度居室や居間を改修している。古民家の為、防災への取り組みは切実で今回の改修にて、どの居室からも屋外に避難できるスロープ等を設置している。利用者は縁側から四季の景色を眺め、ホームの庭先にある菜園で野菜を収穫したり、果実がとれる果樹を植え、食事や入浴の楽しみにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着の意義をふまえた事業理念を作っている、ただ現実として入居者の心身の状態から、ややずれが生じてるが常に意識し実践に繋げる努力をしている	「明るく楽しくできる事を見つけやっていたく」の理念に沿い、利用者のできる事を見つける気持ちで日々の介護に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方から野菜を頂いたり、訪問など地域の人々と交流している、	近所の人から野菜の苗をいただき、ホームの菜園に植えたり、野菜栽培の助言を得ている。地域の自治会に加入し、ボランティア活動に協力し、中学生の職場体験を受け入れているが、日常的な交流には至っていない。	利用者の身体能力が低下し、地域の人との関わりが図りづらい利用者は多いが、自治会に働きかける等で地域の人との交流を深めていただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を優先的に雇用し、近隣住民とも超高齢社会や認知症を共に考える機会を持つよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、防災問題に関して地域の協力を得られるよう取り組んでいる	ホームの現状を報告したり、介護保険について今後の不安や疑問点の話し合いを行っている。ホームの設備改修や災害時の地域との連携や防災への取り組みについて助言を得ているが、隔月の開催ができていない。	会議の参加者はホームへの理解もあり、良き協力者でもあるため、より緊密な関係を築くためにも隔月の開催をしていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場の福祉担当者と日常的に接触している。入居者やスタッフの状況について報告し相談しながら事業を進めている	管理者が介護保険運営委員や介護認定審査委員をしており、日頃から顔を合わせる機会も多く、相談できる関係ができています。ホームの実情を伝え、利用者の困り事の相談にのってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について日常的に話し合い、人権侵害や虐待の防止に努めている	日頃から身体拘束をしない介護方法を、管理者や職員で話し合いをしている。玄関や門扉も日中は施錠せず、利用者は自由な生活をしている。安全な暮らしができるよう、その都度話し合い、工夫しながら実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為について 日常的に具体的に話し合い、虐待の防止に努めている		

グループホーム田舎

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護について、外部識者や社会福祉士と具体的に話し合い学ぶ機会を日常的に持つよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、できるだけ多くの家族や関係者に対して十分に説明し、入居に際しての理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が管理者とできるだけ本音で話せるような関係作りに努めている。月々の請求書を自宅に伺い届けるなど個別に話す機会を作り、話しやすい環境を作っている。	家族からの意見は少ないが、面会時等に意見や要望を聞き、申し送り時や管理者に伝えている。管理者は請求書を毎月自宅に届け、利用者の現況報告をし、意見を言いやすい関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日常の大半の業務についてスタッフの意見を出来るだけ取り上げ、仕事にやりがい感を得られるように努めている。	管理者は職員との連絡や意見はメールで即対応し、リーダーが意見を集約したり職員同士で話し合い検討している。ベッド柵にカバーを取り付ける等安全については、職員とより良い方法を話し合い改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況や能力の向上具合を積極的に評価し、やりがいのある安全で身体負担の少ない職場環境をつくるために努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で行われる講習会を紹介し、参加を呼びかけている。講習会の参加費用の一部を助成している。管理者が受けた講習についてスタッフに説明している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の市町村の勉強会、地域の福祉事業者やグループホーム協議会に参加し、意識とスキルの向上を目指して情報交換をしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より在宅時の生活状況や趣味、性向を聞き取りするなどして本人が安心して暮らしていける環境作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族親類の間の意見調整などを行い、家族全体を支えるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	急激な生活環境の変化を調整するため、ショートステイからのゆるやかな移行や系列デイサービスの応援など様々な経営資源を利用している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が有している生活力を尊重した施設を目指しているが、ただADLとリスクを考えると難しい現実もある。引き続き 利用者の生活力を見い出すよう努めていきたい		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者が有している生活力を尊重した施設を目指しているが、ADLとリスクを考えると難しい現実もある。引き続き 利用者の生活力を見い出すよう努めていきたい		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の理解を得ながら、時折、自宅にもどるなどすることを提案するようにしている	通所施設から移行し、入居した利用者も多く、ホームの菜園でとれた果樹や野菜の収穫にあわせ、通所施設利用者と一緒に触れ合いを楽しんでいる。親族へ年賀状を書く利用者には、出来ない部分の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を注意深く観察し、お互いが生活の質を高めあえるような関係を築けるよう見守り 支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動された方を時折訪問し、本人や家族を側面的に支援している。離れたことでお互い気付くこともあり、自らの在り方についてスタッフと話し、考え、見直している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとって できるだけ居心地のよい場所でありたいと考え、その実現に努めている	入居前の生活歴から、利用者が大切にしていた人や場所を家族から聞いたり、日々の生活場面で意向を聞きだしている。利用者と体や手が触れ合う瞬間の表情や笑顔も見逃さず、職員は思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や意向を把握し、できるだけ暮らしやすい環境作りに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察、記録し スタッフ間で相談しながら生活力、ADLや生活の満足度の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者で話し合いながら 介護計画を作成している	家族に用紙を送付し意見や要望を聞いている。リーダーと管理者が介護計画を作成し、全職員に回覧し周知しているが、定期的な見直しや家族や利用者も含めた話し合いができていない。	利用者の急変時は即変更したり、変化がなくとも定期的に見直し、関係者が一緒の場で話し合いながら、より良いプランを作成していただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を観察記録し、管理者スタッフ間で相談協議し、日々の介護に実践しケアのレベルアップに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設デイの利用、外出レク、緊急時の病院送迎など、利用者や家族の状況、状況に応じて臨機応変に柔軟、迅速に対応している。		

グループホーム田舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節毎の地域の行事に出来るだけ参加するよう努めているが、ADLとリスクを考えると現実的には難しい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	症状に応じて本人あるいは家族の希望する医療機関に受診できるよう支援している。施設かかりつけ医に定期的な受診をお願いし、利用者の状況を把握。日常的に見守って頂いている	定期的にかかりつけ医の往診がある。家族の希望があれば専門医に職員が付き添い受診している。体調悪化時には看護師に指示を仰ぎ、かかりつけ医、提携医療機関等に受診し、家族に詳細を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設デイの看護職員のバックアップを受け、利用者の日々の健康的な生活を見守っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	揖斐厚生病院の入退院に際して、必要な生活情報を提供し、また適時、医師、看護師、MSWと面談し、相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	疾患が重篤となった場合、または重篤になると予想される場合 様々な予後の状態を想定して 我々の出来る事と、家族側が必要な事柄について それぞれ具体的に説明相談している。	入居時に、ホームの方針と出来る範囲について説明している。重度化した場合や看取りを希望した場合は、利用者と家族の希望を聞きながら、かかりつけ医と連携し、その都度方針を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者は救急救命講習を複数回受講している、日々の様々な場面で救急救命法や急変時の対応について説明し スタッフのスキルアップに努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時の避難方法について、日常的に考え話し合い、定期的に避難訓練を行っている。地域の協力体制について協議中。	昨年ホームのどこにいても避難できるようにスロープを造り、スプリンクラーを設置している。避難訓練時は、時間を測定し対応について話し合っている。即安全に避難できるよう居間にヘルメット・軍手を常備している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重した対応をするよう努めている。同時にサポートに適した柔軟な言葉も時には使って利用者のニーズに的確に答えるよう努めている	利用者の呼び名は、個々に希望する言い方とし「〇〇さ、〇〇さん」でその時々に合わせて声かけをしている。ホームで他の家族が撮影する写真は、利用者のプライバシーを損ねないように働きかけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身の思いを聞きだす為に努力している。思いが上手く表現できない場合は適切な選択的な質問を行い 自己決定を促す努力をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定を尊重し日々様々な暮らし方を利用者それぞれが実現できるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	安全と健康に配慮し、適切な身だしなみができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、調理できる利用者はいないが、干し茄子、干し大根作り、芋の皮むきなど下ごしらえや食材作りをスタッフと一緒に楽しんでいる	心身状況が低下し、出来ることが少なくなっていくなかで、えんどうのすじとりや皮むきなどできることを見つけて一緒に行っている。畑で採れた野菜や果物を使用し、職員と一緒に会話を楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー、摂食量を管理、必要に応じて水分のインアウトを記録管理している。消化力を考え分割して栄養分や水分を摂取するよう留意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。毎晩入れ歯の洗浄を必要に応じて指示、見守り、全介助で行っている		

グループホーム田舎

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各々の排泄パターンと能力、状況に応じて適切な排泄介助を行っている。固定的に考えず様々な変化に応じて見直すよう努めている	利用者個々のペースを大切にし、出来るだけトイレへ誘導し個別対応している。自立に向けた支援を行ったことで、排泄レベルや身体状況が向上した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤に出来るだけ頼らない自然な排便を目指している。食物繊維の多い食材の積極的な摂取、適度な運動、座位保持を行ったり漢方系のお茶などを服用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全な入浴が自立的に出来ると見込まれる場合は 本人の希望で入浴して頂くようにしている。	隔日で入浴し、重度になっても立位が取れば2人の職員で介助している。身体状況に合わせてシャワー浴や清拭を行い、できるだけ浴槽で入浴している。畑で採れたゆずでゆず湯を楽しみ、足浴を日常的に行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人と同居者の安全で健康的な生活を優先し、それぞれの希望や生活習慣を配慮した就眠環境作りに努めている。それぞれによって消灯時間は異なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者カルテに薬剤の説明書をファイルして薬剤の詳細について誰でもすぐ判るようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれの生活歴や趣味趣向を家族との話しや日々の生活の中から見つけ出し生活に彩りをあたえる支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭や畑への散歩、喫茶店訪問などへのドライブなどを入居者の体力を考えながら行っている	心身状況が低下し外出への希望も少なく、縁側で四季の景色を眺めて日向ぼっこをしている。家族の協力も得られにくく日常的な外出の機会がない。	身体状況や季節により屋外への移動に困難さはあるが、短時間でも外出の機会をつくっていただきたい。

グループホーム田舎

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	対象者を選び小銭を渡し、地域のスーパーなどで買い物をするなど 金銭感覚の維持に努めていたが、現在は行えていない(最寄りの地元スーパーの閉店)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	挨拶状や年賀状を書くことを支援している(表書きはスタッフ)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの生活環境を配慮した在来木造田舎造りの家屋を施設として利用しつつ、生活上の安全を考慮した改装を行い、また利用者の状況に応じて随時、造作改修を行い安全の維持と健康な生活環境の実現に努めている	梁や壁など田舎作りの日本家屋の良さを生かし、今までの家庭の雰囲気大切にしたり、室温等は利用者の希望を聞いている。居間には利用者の写真や作品を飾り、日々の会話に取り入れ経過している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	伝統的な日本家屋は比較的死角の多く、利用者はそれぞれ『お気に入り』の場を見つけることができやすい。スタッフはそれぞれの居場所を尊重した介護に努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全が確保できる限り 本人が慣れ親しんだ物品を持ち込み 安らかに気持ちよく暮らせる様にと考えている	障子や木製引き戸など居室の扉は、昔の趣をそのまま残し、床は畳を一部分残して利用者が落ち着けるように工夫している。居室の壁には、作品を飾り、鏡台や仏壇など思い思いに持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、トイレへの経路などを入居者の視点を考え見やすく表示している		